

## 平成28年度第1回相楽東部広域連合総合教育会議 会議録

1日 時 平成28年6月13日（月）午前10時～正午

2場 所 和束町体験交流センター 会議室

3出席者 広域連合長 堀 忠雄  
副広域連合長 手仲 圓容  
副広域連合長 西村 典夫  
教育長 西本 吉生  
教育長職務代理 石橋 常男  
教育委員 北口 弘子  
教育委員 中井 薫  
教育委員 大西 研介

4傍聴人 なし

### 5議 事

#### (1) 開 会

司 会 山本事務局長

#### (2) 広域連合長あいさつ

堀 広域連合長

相楽東部広域連合総合教育会議設置要綱第4条に基づき、広域連合長が会議の議長として以降の議事について進行を行った。

#### (3) 教育大綱の策定について

事務局（山本事務局長）から、資料1から資料3に基づき総合教育会議の概要、教育大綱の策定根拠について、資料4に基づき教育に関する「大綱」案について説明を行った。

質疑等の結果、大綱案については、異議なく承認された。

### <主な質疑・意見交換>

#### ○広域連合長

最近では農業や商売など自分でやってみようという人が少ない。安易に勤める方が楽だと考えるのではなく、その差を見極められる職業観、人生観が大事。

相楽東部ならではの教育、小規模校で一人一人に目を向けられる教育は重要だが、それで足りない部分、多くの人と協調することなどは、学校間で連携しながら補っていく。打算的、合理的な考え方が主流の社会の中で、自然との協調、謙虚に生きること、自然に活かされているというように考えられる教育を相楽東部ならではの教育として推し進めていくことが重要。

○副連合長

I C Tに対応できる教育が必要と考えるが、状況はどうか。

○教育長

I C Tの利活用についても年度ごとに予算を組みながら 一気にはなかなか進められないが出来るところから順に取り組んでいるところ。ものだけ揃えてもダメで教師自身が使いこなせるように研修なども考えていく必要がある。

○副連合長

職員の採用で、ペーパー試験の点数がよいだけではなく、やるべきことを感じて、自ら動いていけるような者を採用したいと考えているがなかなかいない。教育は、知識だけではなく自分から物事に挑戦していけるような人間を育てることが重要だと考える。義務教育だけの問題ではないが、地域のことが分かり、地域の魅力を知っているような人を作ってもらいたい。

○教育長

新しいこと、困難なことに挑戦していこうというところが弱いような気がする。「ふるさと学習」でふるさとを見直そう、ふるさとのよさを知ろう、という授業を行っている。将来、子供たちが地域に戻ってくることも狙っているもの。

○教育委員

教員採用試験でも状況は同じ。個人面接やペーパー試験では見えない。集団面接で周りの意見を聴き、論点を整理、つながりを持てるような人材を採用するよう、重きをおいている。

○教育長

今の学生は食堂でも一人で食べている。束縛されない、繋がろうとしない傾向が強いように思う。

○副連合長

トップを目指さない、現状でかまわないという子どもが多いように思う。

○教育委員

茶道を習いにきた外国人が、和東は景色も人もすばらしいので、また戻ってきて仕事がしたいと言っていた。地元は見慣れたものだが、良さに気がついていない。今の子供達にも気づかせて、地元に戻りたいと思わせるような地域を愛する心を育てたい。高校で中退し挫折する子どもがいるので、社会に出る大切さを教えていきたい。社会に出て人の役に立つ気持ちを植え着かせたい。

○副連合長

仕事も長続きせずすぐに辞める。今の教育に何が足りなくて、何を強調しなければならぬのかという議論をしていく必要がある。

住んでいる子供達にも誇りを持ってもらえるようなまちづくりをしていかなければならない。

#### ○教育委員

一人一人は、頭がよいが、人とのコミュニケーションが下手な若い職員。全てを学校に任せておいても、成長するわけではなく、学校と家庭で半々、親も責任を持って育てていくことが必要。

#### ○副連合長

3世代同居の中での家庭教育、祖父、祖母によるしつけなど、今は少なくなっていることも原因。

#### ○副連合長

社会性、横のつながり、人との連携が培われないということで、学校を統合してきたが、さらに児童数は減少している。新潟県越後湯沢は10の自治体が合併した結果、保育園、小学校、中学校を一つにまとめ、27キロを通学しなければならない。将来そういうことも議論する必要が出てくる。子供にとって何が一番良いのか、議論していくべき。

#### ○教育長

統廃合については、文科省は、出来るところはやってくださいというスタンスで、無理にする必要はない。学級編成のための適正な児童・生徒数はあるが、地域を中心に考え、何名以下は統廃合という考え方にはなっていない。

#### ○副連合長

笠置小学校は全校で24名、入学させることに懸念を持たれる父兄もいるが、実際には学校、父兄、地域が一体となり、誇りが持てるような教育が行われている。こういったことを保育園に伝えて安心して入学してもらえるようにしていきたい。笠置小学校の素晴らしさは、感動あふれる卒業式に凝縮されている。

#### ○教育長

笠置小学校は、地域と一体となって取り組まれている。教育委員会としては、現状の笠置小学校の取組を支援していくが、副連合長の視点も将来的には考えていかなければならないと思っているが、いずれにしても地域住民の想いが最優先されるべきであると考えている。

#### ○副連合長

南山城小学校も1学年10人を切ってきている。今の子供が育った時にどのような大人になっていくのかを考えないと今の教育は語れない。

#### ○教育委員

笠置小学校で12月に学習の成果や合唱などを聞かせてもらったが、少人数でも委縮することなく大きな声で発表や歌を聞かせてもらえた。現状では素晴らしい教育がされていると思った。小中学校ではまずは基礎・基本の反復が大切。地域の魅力であるお茶の文化を体験することで発信できるような人に育ててほしい。